

(トップページ：<http://mylibrary.maedal.jp/> )

(MENA ランキングシリーズ：<http://mylibrary.maedal.jp/MENAranking.html> )

マイライブラリー：0580

(注)本稿は2023年6月28日から7月11日まで5回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

掲載日：2023.7.14

前田 高行

## 日本は世界125位、政治参画分野の低さが致命的—世界と中東主要国の「男女格差指数」

(世界ランクシリーズ その5 2023年版)

国連などの国際機関あるいは世界の著名な研究機関により各国の経済・社会に関するランク付け調査が行われている。これらの調査について日米中など世界の主要国及びトルコ、エジプト、イランなど中東の主要国のランクを取り上げて解説するのが「世界ランクシリーズ」である。

第5回のランキングは世界経済フォーラム(WEF)が行った「世界男女格差報告2023(The Global Gender Gap Report 2023)」をとりあげて比較しました。

\*WEFのホームページ：

<https://www.weforum.org/reports/global-gender-gap-report-2023>

### 1. 「世界男女格差報告2023」について

「世界男女格差報告2023(The Global Gender Gap Report 2023)」(以下「2023年版報告書」)を発表した「世界経済フォーラム」(World Economic Forum, WEF)は、スイスのジュネーブに本部を置く非営利団体であり、毎冬スイスのダボスで行われる「ダボス会議」の主催者としてよく知られている。

「2023年版報告書」は世界146カ国を対象に経済、教育、健康、政治の4つの分野について、世界或いは各国の公的機関が公表する男女別のデータに基づき、それぞれの分野の男女間の格差を指数化し順位付けを行ったものである。

#### (1) 比較対象される分野とその内容

対象とされるのは以下の4つの分野であり、各分野にはそれぞれ二つ乃至五つの比較項目がある。

I 経済参画分野：経済活動への参加度及び参画の機会(Opportunity)に関する男女格差

比較項目：(1) 労働参加比率、(2) 同一労働賃金格差、(3) 平均所得格差、

#### (4) 幹部職比率、(5) 専門・技術職比率

### II 教育分野：教育の機会に関する男女格差

比較項目：(1) 識字率、(2) 初等教育就学率、(3) 中等教育就学率、(4) 高等教育就学率

### III 健康・寿命分野：健康と寿命に関する男女格差

比較項目：(1) 新生児男女比率、(2) 平均寿命

### IV 政治参画分野：政治参画の度合に関する男女格差

比較項目：(1) 女性議員比率、(2) 女性閣僚比率、  
(3) 過去50年間の女性元首(首相等)在任期間

#### (2) 指数化の方法と順位付け

146 カ国について上記四つの分野の各比較項目に関する男女それぞれの数値或いは比率のデータを抽出し、この男女のデータについて男性を1とした場合の女性の指数を算定する。この指数の意味は、指数1の場合男女が完全に平等であることを意味しており、指数が低くなればなるほど男女の格差が大きいことを示している。なお項目によっては女性が男性を上回り、単純計算した指数は1を超える場合があるが、このレポートでは格差指数1が最大値とされている。

各比較項目の指数を加重平均したものがその分野の指数となる。更に4つの分野の指数を加重平均したものがその国の格差指数として146カ国の指数を上位から順に総合順位を付けたものである。

(北欧諸国がトップ独占、日本はインドと並ぶ世界125位！)

#### 2. 2023年の男女格差指数世界ランク (末尾表5-T01参照)

2023年の世界男女格差ランクのトップ(即ち男女の格差が最も少ない国)は昨年に引き続きアイスランドである。同国の格差指数は0.912で昨年の0.908より向上している。これに続く2位はノルウェー(スコア0.879)、3位フィンランド(同0.863)、4位ニュージーランド(同0.856)であり、5位はスウェーデン(同0.815)がランクされている。上位5か国のうち4カ国は北欧諸国である。昨年の世界ランクと比較するとベストファイブの顔触れは変わらず、順位も2位と3位が入れ替わっただけである。

日本を含む主要な国々の世界ランクを見ると、英国は15位(スコア0.792)、米国は43位(同0.748)である。一方アジアの主要な国のランクは韓国の105位(同0.680)をはじめ中国107位(同0.678)、インド127位(同0.643)といずれも世界146カ国中では100位以下の下位グループである。このような中で日本は世界ランク125位(同0.647)であり韓国或いは中国を下回り、インドとほぼ同じランクにとどまって

いる。

上記6カ国の世界ランクを前回(2022年、対象国は同じ146カ国)に比べると、日本は116位から125位に9ランク下がっている。また米国も前回の27位から今回は43位に16ランク下がっている。その他韓国、中国も前回より順位が落ちている。これに対して英国とインドはそれぞれ22位→15位、135位→127位と順位を上げている。

中東の主要国では、UAEの世界71位(スコア0.712)がトップであり、イスラエルが83位(同0.701)でこれに続いている。前はUAEとイスラエルの順位が逆であったが、イスラエルが前回の60位から大幅に順位を下げた結果、前回は68位であったUAEが今回中東ではトップとなっている。その他の中東諸国はいずれも世界ランク100位以下であり、トルコ129位、サウジアラビア131位、エジプト134位が130位前後で並んでいる。イランは146か国中のほぼ最低ランクの143位(スコア0.575)にとどまっている。世界最下位の146位はアフガニスタン(スコア0.405)であり中東諸国は男女格差が極めて大きい。

(格差が大きい政治分野、小さい教育分野！)

### **3. 分野別のランクとスコア** (末尾表 5-T02 参照)

男女格差指数は(1)経済参画分野、(2)教育分野、(3)健康・寿命分野及び(4)政治参画分野の4つの分野について公表されたデータに基づいて詳細な比較検討が行われている(本稿第1章参照)。本章では第2章で取り上げた国々、すなわち世界の上位5か国及び日本を含む主要各国並びに中東主要国について4分野のスコアと世界ランクを概観する。

#### (1) 経済参画分野の男女格差

総合世界1位のアイスランドはこの分野では世界14位(スコア0.796)である。因みにこの分野のトップはリベリア(同0.895)であり、その他上位陣にはジャマイカ、ベラルーシ、ボツアナなどが入っている。米国は21位(同0.780)、英国は43位であるが、日中韓印のアジア4か国は、中国の45位(同0.727)が最も高く、韓国114位、日本123位、インド142位である。

#### (2) 教育分野の男女格差

WEFが各国の統計値をもとに判断した教育分野の男女格差は世界的に極めて小さい。即ちフィンランド、インド、イスラエルのスコアは1.000であり男女格差が無い。格差指数は1.000が上限であり、国によっては1を超える(即ち女性と男性の逆格差)ケースもあり、教育格差指数1.000は146か国中30か国に達する。また146か国中の半数を超える81か国の格差指数が0.990以上である。

日本のスコアは0.997でありトップ(1.000)との格差は0.003にすぎないが、世界ランクは47位である。中国はスコア0.935で世界123位である。中東諸国で

はイスラエルがスコア1.000で世界1位グループに入っている。その他 UAE は世界86位(スコア0.988)、サウジアラビア87位(同0.986)であり、エジプト、イランは世界100位以下である。但し世界119位のエジプトのスコアは0.943で UAE と比べスコアの格差はさほど大きくない。

### (3) 健康・寿命分野の男女格差

世界1位のスコアは0.980で、ブラジル、ハンガリー、スリランカなど26カ国が並んでいる。スコアがわずかに0.007しか変わらない日本(スコア0.973)は世界順位が59位とされている。中国(スコア0.937)はこの分野最下位のアゼルバイジャン(同0.936)に次ぐ低いランクにとどまっている。トップと世界最下位のスコアの差は0.044で、この格差の中に146カ国がひしめいており、わずかなスコアの差がランク上の大きな差となって表れている。

留意すべきは健康・寿命格差は各国の医療福祉水準の良し悪しを比較したものではなく、あくまでも当該国において医療福祉にアクセスする場合の男女の格差を示したものである。先進国、発展途上国を問わず一般に女性の平均寿命が男性よりも長いことは事実であり、指数化して比較すると一見男女格差が無いように見える点に注意すべきであろう。

### (4) 政治参画分野の男女格差

この分野の世界1位はアイスランドで同国のスコアは0.901である。これに続く世界2位はノルウェーであるが、同国のスコアは0.765でありアイスランドと大きな開きがある。3位、4位はそれぞれニュージーランド、フィンランドであり総合順位とほぼ同じである。日本はスコア0.057、世界順位138位であり、インド(世界59位)、米国(63位)にはるかに及ばず、韓国(88位)、中国(114位)とも大きな差がある。中東諸国と比べても日本は UAE(35位)、エジプト(85位)と大きな差があり、トルコ(118位)に並ぶ水準である。

この分野トップのアイスランドのスコアと日本のスコアの差は0.844と極めて大きい。因みにこの分野の最下位はアフガニスタンの0.000である。これは同国の男女格差が無限大に近いこと示している。4分野の中で政治参画分野は国別格差が最も大きい。

政治の男女格差は女性国会議員数、閣僚数、或いは過去50年間の女性元首(首相等)の在任期間でランク付けされているため全体的に各国ともスコアが低く、また同じ先進国でもヨーロッパに比べ日米のランクが低い結果となっている。

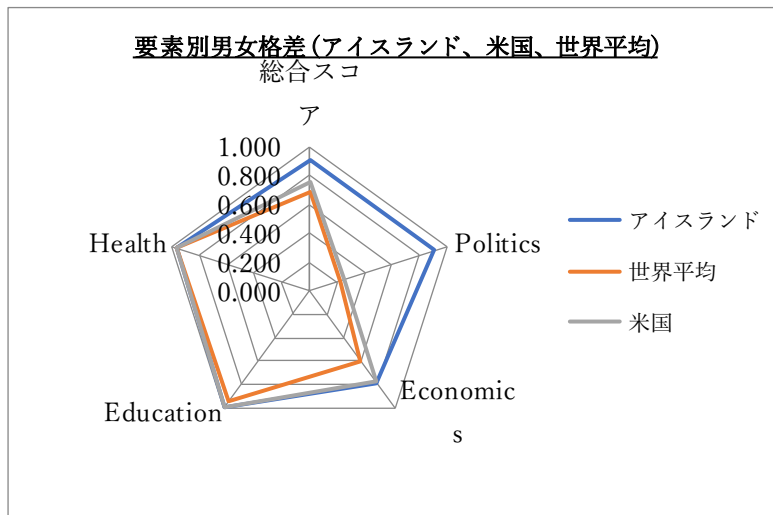
## 4. 要素別比較(レーダーチャート)

ここでは8カ国及び世界平均を取り上げ、これらを3グループにわけてそれぞれの総合順位、経済、教育、健康及び政治の4分野別スコアをレーダーチャートで表してみる。レーダーチャートは最も外側がスコア1.000(つまり男女格差が無い若しくは女性が男性を上

回る) を示し最も内側はスコア 0.000 (即ち男女格差が無量大) である。グラフの実線が外側に広がるほど男女格差が少ないことを示し、また真円に近いほど4分野の男女格差が平均化していることを示している。

(際立って高いアイスランドの政治分野のスコア!)

(1) チャート1 (アイスランド、米国、世界平均)

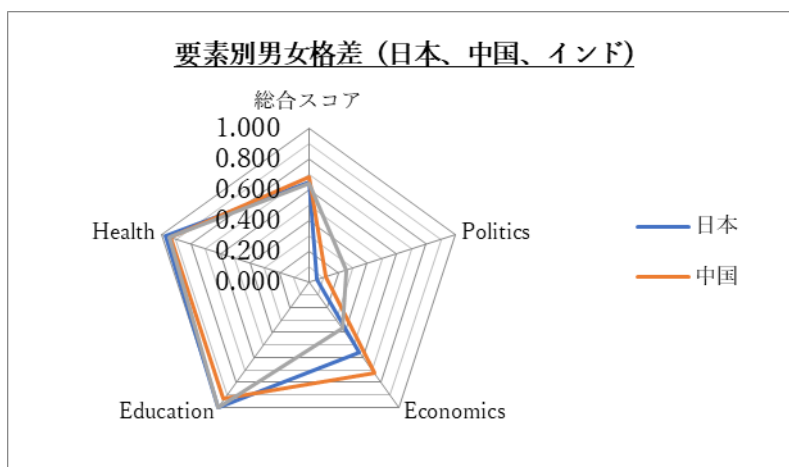


総合スコアではアイスランドは0.912であり、米国は0.748、世界平均は0.684である。分野別に見ると政治分野はアイスランド0.901、米国0.248、世界平均0.221であり、アイスランドのスコアが際立って高い。経済分野はアイスランド(0.796)と米国(0.780)の格差は小さく、世界平均のスコアは0.601

にとどまっている。教育及び健康分野は3者ともスコアが0.950以上であり有意な差は見られない。

(政治分野は印中日、経済分野は中日印の序列!)

(2) チャート2 (日本、中国、インド)

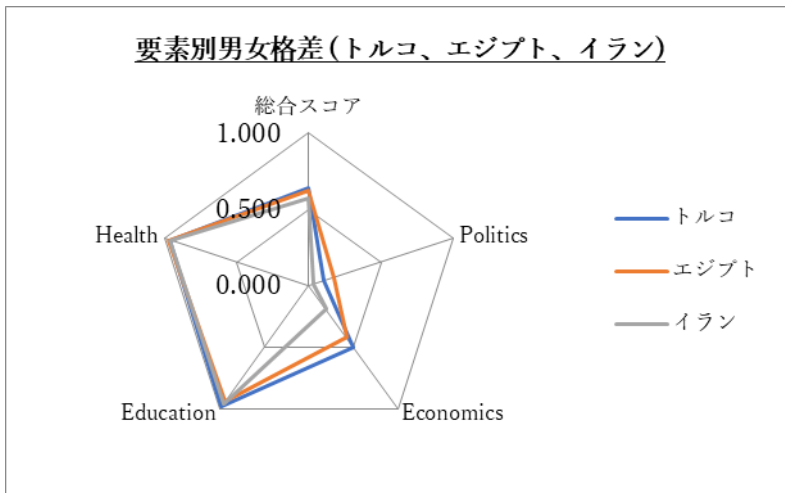


総合スコアは中国(0.678)、日本(0.647)、インド(0.643)であり、3カ国に大きな差異はない。分野別に見ると政治分野ではインドが0.253と最も高く、次いで中国(0.114)、日本は0.057であり2カ国との格差は大きい。経済分野の格差は中国(0.727)、

日本(0.561)、インド(0.367)で政治分野以上に格差が大きく、しかも3カ国の中で政治分野トップのインドが経済分野では3カ国中最も低いことが特徴である。教育分野ではインドは男女完全平等(1.000)であり、健康分野では日本(0.973)が最も高いが、3カ国のスコアに大きな差は見られない。

(教育分野以外でトルコ、エジプトに劣るイラン!)

(3) チャート3 (トルコ、エジプト、イラン)

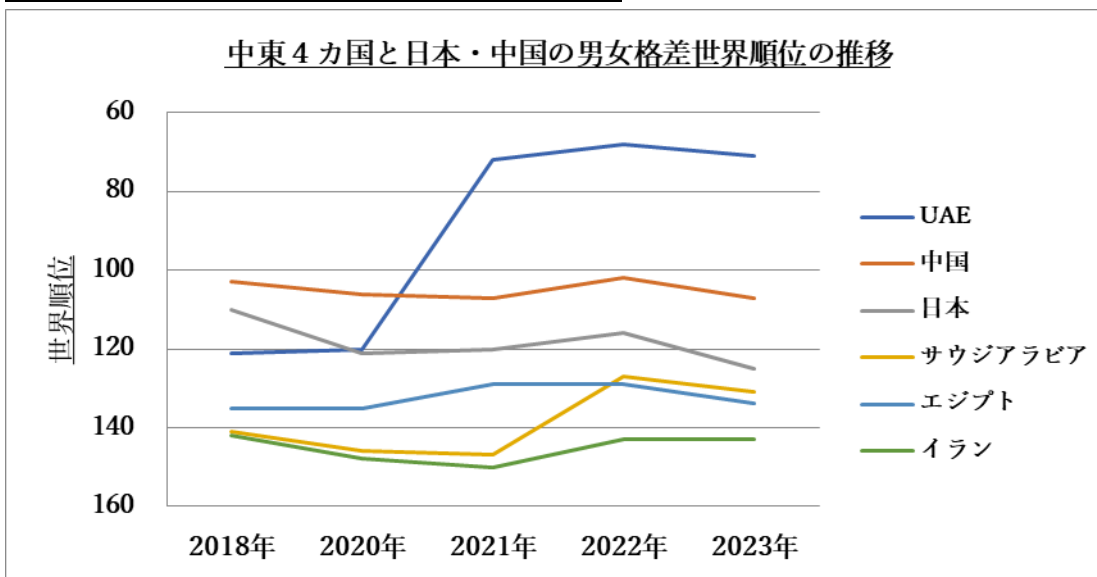


中東の三大国トルコ、エジプト及びイランはイスラーム国家と言う共通点を持つが、人種的にはトルコ人、アラブ人、ペルシャ人の違いがあり、また政治・経済体制も異なる。しかし男女格差で見るといずれも世界ランクはトルコ129位、エジプト134位、イラン143位と世界の最低レベルにとどまっている。

3カ国を分野別に比較すると、経済分野の男女格差スコアはトルコ(0.500)、エジプト(0.420)、イラン(0.188)でイランのスコアがトルコ及びエジプトを大きく下回っている。政治分野についても同様の傾向が見られ、エジプト(0.175)、トルコ(0.106)に対してイランは(0.031)であり、イランの男女格差が非常に大きい。教育及び健康分野のスコアはいずれも0.940から0.980の範囲である。ただし上記に述べた通りこの2分野は世界平均が0.952及び0.960であるため、世界順位では100位前後にとどまる。

(突如急上昇したUAE、5年前の110位から低落続く日本！)

5. 2018～2023年の総合ランクの推移



ここでは中東4カ国(UAE、エジプト、サウジアラビア及びイラン)に日本、中国を加えた6カ国の過去5回の世界ランクの推移を検証する。

この6カ国のうち日本は2018年の110位をピークにして凋落傾向にあり今回は12

5位にとどまっている。また中国の過去5回の順位の推移は、103位（‘18年）→106位（‘20年）→107位（‘21年）→102位（‘22年）→107位（‘23年）と低迷している。

これに対して UAE 及びサウジアラビアは世界順位が大幅に改善されている。特に UAE は2020年の120位から‘21年には72位と順位を大きく上げており、その後も70位前後にとどまっている。サウジアラビアも2022年に前年の147位から127位へ20ランクアップしている。エジプトは130前後を維持している。一方、イランは過去5回を通じて世界最低ラインに近いランクを続けている。

### 追記：各分野のスコアとその配分に若干の問題？

WEF の男女格差指数では日本のランクが極めて低く、特に先進国の中で最低のランクとスコアであり、しかも年々悪化していることはかなりショッキングな内容と言えよう。日本の場合、政治分野の男女格差が諸外国に比べて際立って大きく、また経済分野でも格差の是正が遅れていることは WEF が指摘するまでもなく明らかであり、その点では WEF の評価に異論を唱えるつもりはない。しかしながら4分野のスコア配分あるいは各分野において一部開発途上の国々がかなり高いスコアを出していることには若干問題があるように見受けられる。

まず各分野のスコアの偏差値がかなり片寄っていることが指摘できる。これは上記4のリーダーチャートを見ればよくわかる。例えば政治分野は0.901（アイスランド）が最も高く、0.000（アフガニスタン）が最も低い。その格差は0.901である。経済分野も政治分野同様スコアの格差が大きい。これに対して健康分野では最高スコア0.980（ブラジル他26カ国）に対し最低スコアは0.936（アゼルバイジャン）であり、格差は0.044に過ぎず、教育分野では格差指数最大の1.000が30カ国にのぼっている。総合順位は各項目を加重平均したものであるため偏差値の大きい政治及び経済分野が全体のスコアと順位に影響を及ぼしているのである。

各分野の国別スコアも問題含みと言えそうである。例えば健康分野の最高スコア0.980を与えられた26カ国の中にはナミビア（因みに同国は総合世界8位）、ボツアナなどアフリカ大陸の国々、あるいはブラジル、ドミニカ、エルサルバドルなどの中南米諸国が入っている。また経済分野では北欧諸国とともにアフリカのリベリア、ブルンジ、ザンビアなど多くの開発途上国がトップグループに入っており、これらの国の中には独裁政権も混じっている。

スコア算定のデータは国際機関が発表したものも少なくないが、原始データはいずれも各国政府が提供したものである。各国政府が意図的に脚色したデータを提出してもそれを検証することは困難であり、意図的な改ざんは独裁政権では極めてありがちである点を指摘しておきたい。（以上はあくまでも筆者個人の私見であることをお断りしておく。）

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax: 042-360-1284, 携帯: 090-9157-3642  
E-mail: [maeda1@jcom.home.ne.jp](mailto:maeda1@jcom.home.ne.jp)



## 男女格差指数ランキング

2023 年			2022 年			2023/2022 年	
世界順位	国名	スコア	世界順位	国名	スコア	順位	スコア
1	アイスランド	0.912	1	アイスランド	0.908	0	0.004
2	ノルウェー	0.879	2	フィンランド	0.860	-	-
3	フィンランド	0.863	3	ノルウェー	0.845	-	-
4	ニュージーランド	0.856	4	ニュージーランド	0.841	-	-
5	スウェーデン	0.815	5	スウェーデン	0.822	-	-
最下位 (146 位)	アフガニスタン	0.405	最下位 (146 位)	アフガニスタン	0.435	-	▲ 0.030
15	英国	0.792	22	英国	0.780	7	0.012
43	米国	0.748	27	米国	0.769	▲ 16	▲ 0.021
105	韓国	0.680	99	韓国	0.689	▲ 6	▲ 0.009
107	中国	0.678	102	中国	0.682	▲ 5	▲ 0.004
125	日本	0.647	116	日本	0.650	▲ 9	▲ 0.003
127	インド	0.643	135	インド	0.629	8	0.014
	(中東主要国)			(中東主要国)			
71	UAE	0.712	68	UAE	0.716	▲ 3	▲ 0.004
83	イスラエル	0.701	60	イスラエル	0.727	▲ 23	▲ 0.026
129	トルコ	0.638	124	トルコ	0.639	▲ 5	▲ 0.001
131	サウジアラビア	0.637	127	サウジアラビア	0.636	▲ 4	0.001
134	エジプト	0.626	129	エジプト	0.635	▲ 5	▲ 0.009
143	イラン	0.575	143	イラン	0.576	0	▲ 0.001

## 2023年男女格差指数ランキング(項目別)

世界 順位	国名	Overall	Politics	Economics	Education	Health
		スコア	スコア	スコア	スコア	スコア
1	アイスランド	0.912	0.901	0.796	0.991	0.961
2	ノルウェー	0.879	0.765	0.800	0.989	0.961
3	フィンランド	0.863	0.700	0.783	1.000	0.970
4	ニュージーランド	0.856	0.725	0.732	1.000	0.966
5	スウェーデン	0.815	0.503	0.795	1.000	0.963
最下位 (146位)	アフガニスタン	0.405	0.000	0.188	0.482	0.952
15	英国	0.792	0.472	0.731	0.999	0.965
43	米国	0.748	0.248	0.780	0.995	0.970
105	韓国	0.680	0.169	0.597	0.977	0.976
107	中国	0.678	0.114	0.727	0.935	0.937
125	日本	0.647	0.057	0.561	0.997	0.973
127	インド	0.643	0.253	0.367	1.000	0.950
	(中東主要国)					
71	UAE	0.712	0.363	0.536	0.988	0.963
83	イスラエル	0.701	0.150	0.688	1.000	0.964
129	トルコ	0.638	0.106	0.500	0.980	0.966
131	サウジアラビア	0.637	0.077	0.521	0.986	0.964
134	エジプト	0.626	0.175	0.420	0.943	0.968
143	イラン	0.575	0.031	0.188	0.960	0.964
	世界平均	0.684	0.221	0.601	0.952	0.960